

パーセント)が例年に続き上位を占めこの部門で、七十七・五パーセントを占める。この状況は、ここ数年間、大きな変化がなく続いている。

就業構造面から、この三か年の傾向をみると、農業、水産業などの一次産業への就業者は、五十四年度二・五パーセント、五十五年二・三パーセント、五十六年度一・七パーセントと減少し、同様に、流通、サービス業などの三次産業も、年度順に、五十六・五パーセント、五十四・二パーセント、五十一・〇パーセントと減少を示している。これに対し、製造業などの二次産業では、年度順に、四十一パーセント、四十三・五パーセント、四十七・三パーセントと増加を示している。

(四) 地区別就職状況

(表9・図2参照)

就職進学者、就職入学者五百五十二人を含めた全就職者一万三千五百四十四人中、県内就職者は、男子三千八百七十二人(五十九・一パーセント)、女子四千二百五人(六十三・七パーセント)、計八千七十七人(六十一・四パーセント)で、前年度に比し〇・八パーセントの減を示した。

四十九年度まで四十パーセント台にあった県内留保率(県内就職率のこと)は、五十年から上昇に転じ、以後年々上昇を続け、五十四年度には六十パーセントを超した。本年度は前年度に比し〇・八パーセント減少した。

表8 産 業 別 就 職 状 況

就職進学・入学者(552名)を含む

産業別 性別 学科別	農 業	林 業 狩猟業	漁 業 水産業 養殖業	鉱 業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金 融 保険業	不 動 産 業	運 輸 通信業	電 気 ガ ス 水道業	サービ ス 業	公 務	左 記 以 外	計
	普通科	男 31 女 6 計 37	男 4 女 2 計 6	男 3 女 1 計 4	男 - 女 1 計 1	男 43 女 50 計 93	男 692 女 1,481 計 2,173	男 403 女 927 計 1,330	男 31 女 300 計 331	男 1 女 3 計 4	男 153 女 103 計 256	男 54 女 42 計 96	男 225 女 820 計 1,045	男 382 女 109 計 491	男 25 女 60 計 85
農業科	男 128 女 6 計 134	男 3 女 - 計 3	男 18 女 - 計 18	男 - 女 - 計 -	男 77 女 2 計 79	男 524 女 156 計 680	男 175 女 56 計 231	男 1 女 2 計 3	男 - 女 - 計 -	男 13 女 5 計 18	男 8 女 - 計 8	男 88 女 35 計 123	男 83 女 - 計 83	男 10 女 - 計 10	男 1,128 女 262 計 1,390
工業科	男 11 女 - 計 11	男 1 女 - 計 1	男 1 女 - 計 1	男 - 女 - 計 -	男 273 女 5 計 278	男 1,558 女 182 計 1,740	男 114 女 16 計 130	男 2 女 1 計 3	男 - 女 - 計 -	男 129 女 3 計 132	男 81 女 2 計 83	男 155 女 26 計 181	男 91 女 - 計 91	男 10 女 2 計 12	男 2,426 女 237 計 2,663
商業科	男 3 女 - 計 3	男 - 女 - 計 -	男 1 女 - 計 -	男 - 女 - 計 -	男 18 女 21 計 39	男 264 女 452 計 716	男 344 女 403 計 747	男 82 女 188 計 270	男 - 女 3 計 3	男 37 女 34 計 71	男 14 女 10 計 24	男 110 女 210 計 320	男 67 女 11 計 78	男 4 女 5 計 9	男 944 女 1,337 計 2,281
家庭科	女 2	-	-	-	8	412	210	20	-	27	7	164	5	5	860
理数科	男 -	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	1	3	-	8
全日制	男 173 女 14 計 187	男 8 女 2 計 10	男 23 女 1 計 24	男 - 女 1 計 1	男 411 女 86 計 497	男 3,040 女 2,683 計 5,723	男 1,037 女 1,612 計 2,649	男 116 女 511 計 627	男 1 女 6 計 7	男 333 女 172 計 505	男 157 女 61 計 218	男 579 女 1,255 計 1,834	男 626 女 125 計 751	男 49 女 72 計 121	男 6,553 女 6,601 計 13,154
構成比 (%)	1.4	0.1	0.2	0.0	3.8	43.5	20.1	4.8	0.1	3.8	1.7	13.9	5.7	0.9	100.0